２０１２．０９．１８

第４２回全日本実業柔道個人選手権大会戦評
(主に当連盟加盟チーム選手を中心)

男子８１ｋｇ級

男子８１ｋｇ級は、垣田が不覚の指導を受け、涙を飲む。

準優勝は、連覇を目指した昨年の覇者旭化成の垣田恭平参段。垣田は多彩な技で対戦相手を翻弄して順当に勝ち進み、準決勝戦は小林雅司参段（パーク２４）との対戦。

優勝したパーク２４の平尾譲一参段は得意技の大内刈を中心に試合を組み立てオール一本勝で進撃。準決勝戦では、山田恭平参段（東芝）から指導２を奪って決勝戦に進む。

準決勝戦第１試合

３垣田　恭兵○　　小外掛　　３小林　雅司

（旭化成）　　（パーク２４）

垣田は左、小林は右組み。組手争いから垣田は背負等、小林が内股で攻める展開が続く。迎えた１分３５秒には、垣田は小林の内股を透かして有効を奪う。小林が背負投や小外刈で攻めると３分４秒、守勢になった垣田に指導１。その直後、場外近くの攻防で、垣田が小林を抱え上げながら小外掛で小林を背中から倒して、３分１５秒、一本。

準決勝戦第２試合

３山田　恭平　　（指導２）　　②３平尾　譲一

（東芝）　　（パーク２４）

決勝戦

３垣田　恭兵　　（指導２）　　②３平尾　譲一

（旭化成）　　（パーク２４）

両者左組み、同年齢同士の決勝戦。１７秒、思いも寄らず垣田に袖口指導。その後、垣田は平尾の右袖を絞って左背負投を仕掛けると、平尾は左大内刈と蹴りこむ様な右出足払を連発する。中盤、垣田が低い背負投を連発すると、２分２４秒に今度は平井に指導１が与えられる。平井は強引に垣田の左脛辺りに足払を仕掛け続け、垣田は左脚を痛める。その後も両者、袖口を絞り合って、釣手を持たぬまま技を繰り出すも効果なし。終盤、平尾が奥襟を狙いに来たところを垣田は首を抜いて防ぐと、思わず後ろ向きになり、一瞬の平

尾に攻められた攻防を防御とされ、４分１９秒、指導２を受ける。終盤、垣田の必死の猛反撃も実らず時間。その瞬間、垣田の連覇の夢が潰える。